



リリースノート(参考資料)

AdRem NetCrunch 9

NetCrunch は AdRem Software が開発し所有する監視ソフトウェアである。
株式会社情報工房は日本における総販売代理店である。

©2017 Johokobo, Inc.

目次

1. 本資料について	1
2. NETCRUNCH 9 の新機能/変更点/修正点	1
2.1. バージョン 9.1.1.3664	1
2.2. バージョン 9.1.2.3669	3
2.3. バージョン 9.1.3.3673	3
2.4. バージョン 9.1.4.3687	3
2.5. バージョン 9.1.4.3688	4
2.6. バージョン 9.1.5.3695	4
2.7. バージョン 9.2.0.3808	4
2.8. バージョン 9.3.2.3883	6
2.9. バージョン 9.3.3.3896	8
3. 既知の問題	10
3.1. アップグレードにおける問題	10
3.2. その他	11
4. よくある質問	11
4.1. よくある質問および回答	11

1. 本資料について

本資料では、AdRemNetCrunch バージョン 9.3.3.3896 日本語版(以下 9)について記載しております。

2. NetCrunch 9 の新機能/変更点/修正点

NetCrunch 9 での新機能、変更点、修正点について記載いたします。

2.1. バージョン 9.1.1.3664

- IP SLA オペレーションセンサーの追加 (Premium XE のみ)
- 新規ネットワークサービスの定義にてプロトコルタイプに TLS/SSL を指定可能
- デフォルトのネットワークサービス監視に以下の定義を追加
 - ・Secure LDAP
 - ・POP3S
 - ・SMTPS
 - ・IMAPS
 - ・FTPS
- 以下の監視パックを追加
 - ・NetCrunch サーバーの監視
- イベント定義にアラートの発生条件(条件付きアラート)の追加 (Premium XE のみ)
- 複合イベントの追加 (Premium XE のみ)
- プログラムコンポーネントの更新
 - ・デバイスタイプの定義
 - ・OpenSSL コンポーネントを 1.0.2d に更新
 - ・アイコンの追加
 - ・Windows Server 2016 のサポート
 - ・付属のマニュアルの更新
- GrafCrunch の追加
 - ※使用する場合、リモートアクセスライセンスを消費
- 外部イベントウィンドウの追加 (Premium XE のみ)
- SNMPトラップ監視の改良
 - ・ノードの SNMP 監視が無効でも SNMPトラップの監視が可能
 - ・SNMP 監視と SNMPv3トラップのプロフィールを分割
 - ※仕様変更に伴い、SNMPv1 と v2c のトラップ用コミュニティの設定を削除

- アラートアクションの実行条件の拡張
 - ・ノードが所属するマップや時間範囲の指定が可能
- 以下のステータスウィジェットを追加
 - ・ネットワークサービスステータス
 - ・監視パックステータス
 - ・インターフェースステータス
 - ・監視センサーステータス
 - ・保留アラートステータス
- UI の改良
 - ・サーバータスク通知ウィンドウの追加
 - ・マップの編集の改良
 - ・ノードの設定ウィンドウにチュートリアルを追加
 - ・レポートのフッターにロゴイメージの追加が可能
 - ・アラート通知リストの改良
 - ・お気に入りマップをブックマークに変更
 - ・アラートメッセージ形式のエディタの変更
- 時間範囲のスキーマの拡張
- アーキテクチャの変更
 - ・インストール対応 OS を 64 ビットサーバーのみに変更
 - ・リモートコンソールにて MIB コンパイラを利用可能
 - ・NetCrunch データ保管フォルダパスにバージョン情報を付与しないよう仕様を変更
※今後新しいバージョンにおいても同じフォルダを使用する予定
- 様々な改良
 - ・SSH 監視における公開鍵認証のサポート
 - ・Web ページセンサーにて同じ URL で異なるポートの監視が可能
 - ・ESX データストアの監視
 - ・NetCrunch サービスの自動再起動の改良
- アラートの改良
 - ・監視問題によるアラートを追加
 - ・Syslog、SNMPトラップのエンコードの指定を追加
 - ・アラートアクション(指定ファイルに出力、SSH スクリプトの実行、Windows スクリプトの実行)のフォーマットに XML と JSON を追加
 - ・しきい値監視イベントにて複数インスタンスを選択可能
- 以下のアラートアクションを追加
 - ・ノードの監視間隔の変更
 - ・ノードのカスタムフィールドの編集
- ダイナミックビューの改良
 - ・フィルター条件に保留アラート数を追加
- 以下のイベントログビューを追加
 - ・存続期間が 10 分未満
 - ・存続期間が 1 時間以上
 - ・存続期間が 1 日以上

- 構文解析式の追加
※テキストログ、メールアラートの監視センサーに使用
- 以下の監視センサーを追加
 - ・メールアラート
 - ・メールボックス
 - ・テキストログ (Premium XE のみ)
- その他の変更点
 - ・Linux メモリカウンタの算出方法を変更
 - ・PING の監視方法を変更
 - ・インターフェース監視にて 64 ビットインターフェースカウンタをサポート
 - ・監視スレッドを担うプロセッサの使い方を改良
- 下記の機能の削除
 - ・物理的セグメントマップでの SONMP の使用
 - ・マップの背景のタイプでの「イメージ」の使用
※マップに画像を挿入したい場合は、[挿入]→[画像]から可能

2.2.バージョン 9.1.2.3669

- 一部の Windows 10 にインストールできない問題を修正

2.3.バージョン 9.1.3.3673

- IIS が稼働している場合にインストールがハングアップする問題を修正
- OpenSSL をバージョン 1.02f に更新
- ノードアイコンを選択した際、誤ったキャプションが表示される問題を修正
- 一部の Windows システムのバージョンが、仮想マシンとして不適切に検出される問題を修正

2.4.バージョン 9.1.4.3687

- アップグレード時に以前のバージョンをアンインストールする際、インストーラがハングアップする可能性がある問題を修正
- OpenSSL をバージョン 1.02g に更新
- 一部の HP スイッチのインターフェースを監視すると、フラッドする可能性がある問題を修正
- NetCrunch ノードを含む複数の Windows ノードを選択した場合、デフォルトの認証情報がカスタムノード認証情報に変更されることがある問題を修正
- 名前の最後が数字のノードを追加できない問題を修正
- SNMPv1 トラップのフィルター条件が正常に動作しない問題を修正
- アクションメッセージに特定の文字列を追加すると定義ファイルが破損する問題を修正
- 古いアトラスをアップグレードするとカスタムアクションが削除される問題を修正

- パフォーマンスビューのバーの色が指定した色に反映されない問題を修正
- インベントリデータを収集する際のデータ変換のエラーを修正
- Windows パフォーマンスカウンタの秒単位の計算が不正な値で表示される問題を修正
- トレンドビューアのヒントに表示される値が 0 の代わりに 0.001 と表示される問題を修正
- Webhook アクションを https で稼働できるよう修正
- バージョン 8 からアップグレードした場合、時間制限が正常に引き継がれない問題を修正

2.5.バージョン 9.1.4.3688

- ノードのイベントのアクションの設定後、NetCrunch 搭載サーバーの再起動、コンソールのキャッシュをクリアした場合、アクションの設定を失う場合がある問題を修正

2.6.バージョン 9.1.5.3695

- SNMP プロフィールの編集で暗号化タイプが内部的に不適切に設定されたことによる SNMPv3 暗号化の問題を修正
- OpenSSL をバージョン 1.02h に更新
- バージョン 9.1.4 においてノードタイプに Windows 10 が存在しない問題を修正
- NetCrunch Server が再起動したのち不適切に「ノードが UP」のイベントが発生する問題を修正
- NCIS プロセスが高い CPU 使用率を引き起こす場合がある問題を修正
- 障害が発生した場合に WebAppSrv が正常に再起動しない問題を修正
- Web ページセンサーは SSL 証明書のエラーを適切に処理しない問題を修正
- email(HTML メール)形式にカスタムフィールドが存在しない問題を修正

2.7.バージョン 9.2.0.3808

- ユーザーアカウントとアクセスプロフィールの再設計
- コンソールのログインの再設計
コンソールの利用に NetCrunch ユーザーの管理者権限が必要
- Solaris 監視の追加
- 統合モジュール機能の追加
 - ・IFTTT
 - ・PagerDuty
 - ・Zedesk
 - ・Freshdesk
 - ・Trello
 - ・Slack

- ・Twitter
- ・HipChat
- イベント詳細の再設計
- SNMPv3 コンテキストフィールドの使用のサポート
- SNMP の文字列の監視
- SNMPv3 を使用して Cisco のレイヤー2 セグメントの監視のサポート
- Unix 系システムのディスク監視の拡張
- パフォーマンスビューの表示の改良
- 監視センサーのテスト機能の追加
- 以下の監視パックの追加
 - ・HP ProCurve
 - ・Sophos Anti-virus Server
 - ・VMware VirtualCenter Server 6.0
 - ・Cisco ASA VPN トンネル
 - ・Cisco Unified Communications Manager
 - ・Java Application Server (SNMP)
 - ・Veeam Backup と Replication Server
 - ・バラクーダスパムとウイルスファイアウォール
 - ・Generic CMYK Printer
 - ・NetCrunch 監査
- Web メッセージ機能の追加
 - ・任意のアプリケーションから HTTP プロトコルを使用した REST API のメッセージを受信可能
- トレンドビューアの機能の拡張
 - ・表示タイプ(トレンド、トレンド+範囲、エリア、積み重ね)
 - ・スケールのカスタマイズと単位の調整
 - ・複数ノードでの値の比較
- レポートチャートの改良
- [監視問題]ウィンドウの再設計
- ノードのメモの再設計
- タスクの自動ポップアップの無効化機能の追加
- 新しいフィルター条件の追加
 - ・IP アドレスは次の範囲外
 - ・IP アドレスは次のサブネット外
 - ・IP アドレスが割り当てられている
 - ・IP アドレスが割り当てられていない
- Web アクセスでのノードのプロパティタブの表示の追加
- ノードステータスでの監視問題の表示を[サマリ]タブに変更
 - ・Web アクセスでも監視問題を確認可能
- Web アクセスでのアトラスツリーの自動折りたたみ機能の追加
 - ・権限によって表示可能なマップがない場合、アトラスツリーを自動的に折りたたみ
- SNMP MIB 検索の改良
 - ・複数の単語を使用して検索可能

- 監視パックのフォルダの管理機能の追加
- アトラスコンフィグレーションウィザードの再設計
- API キーマネージャーの追加
- 監視認証情報マネージャーの追加
- リモートセッションの表示画面の追加
- GrafCrunch の新しいバージョンのリリース
 - ・複数の NetCrunch サーバーへの接続が可能
- NCCLI の追加
 - ・Admin のパスワードのリセット
- ローカルコンソールの自動終了機能の追加
 - ・リモートデスクトップ接続で NetCrunch 搭載サーバーに接続している場合、接続を切断して 3 分後に自動的にコンソールを終了
- 新しい MIB をコンパイルしたのち、カウンタ名が表示されない問題を修正
- トレンドビューアにおいて、誤った時間範囲が表示される場合がある問題を修正
- 二次インターフェースの設定が削除される場合がある問題を修正
- 一部のアイコンのキャプションの誤りを修正
- アクションの時間制限の問題を修正
- WebAppSrv の安定性を修正
- Web アクセスの権限の再設計
- マッププロパティに[プライベートレイアウト]オプションを追加
- 以下の機能の削除
 - ・アラートアクションのディスクデフラグの実行
 - ・イベントログのプレビュー(イベント詳細)のエクスポート
 - ・Web アクセスでの新しいノードの追加
 - ・マッププロパティの[ビジュアルマップの共有]オプション

2.8. バージョン 9.3.2.3883

- スマートページ機能の追加
 - ・自動的に最も関連性の高いコンテンツに応じてページを表示
 - ・表示するページとビューのデフォルト設定を変更可能
- 概要(ダッシュボード)に[ノード]ビューを追加
 - ・最大 50 ノードまでのノードの概要を表示
- [設定]ビューの追加
- 検索機能の拡張
 - ・ノード、アトラスビュー、設定、ドキュメント、ナレッジベース、ブログ記事を検索
- 自動スケール機能の追加
 - ・ダッシュボード、マップ、グリッドは、解像度やビューのコンテンツに応じてサイズを自動調整
- フルスクリーンの自動スクロール機能の追加
 - ・フルスクリーンモードではダッシュボードが自動的に上下にスクロール

- 一般的なエージェントデータの監視センサーの追加
 - ・REST API を使用して NetCrunch にデータの送信が可能
- 認証情報プロフィールのカスタマイズ機能の追加
- Active Directory ドメインの自動再スキャン
- 統合モジュール機能に以下を追加
 - ・campfire
 - ・pushover
 - ・ryver
 - ・clicatell
 - ・asana
 - ・connectwise
 - ・flowdock
 - ・freshservice
 - ・jira
 - ・jitbit
 - ・liveagent
 - ・mojo helpdesk
 - ・ops genie
- トップメニューのレイアウトの再設計
- アトラスの再スキャン機能を追加
 - ・初期スキャンと同様、全てのノード、ネットワーク、ドメインを再スキャン
- ノードの表示名の改良
 - ・マップごとではなく、ノードに対して表示名を設定可能
- バックアップ完了イベントを追加
- イベント抑制の管理画面の再設計
- 物理的セグメントマップのトラフィック情報の表示の改良
- ノードの一覧表示のビューに[直近のメモ]を追加
- HTTP 関連の監視センサーにて、プロキシをサポート
- Web アクセス権の改良
 - ・バージョン 9.1.x からのマイナーバージョンアップの際、一部のカスタム Web アクセス権の継承が可能
 - ・[> ノード > イベント]アクセス権の追加
 - ・エディタの改良
- コンソールの改良
 - ・メモリ使用率を約 30%削減
 - ・多くのコンソールパフォーマンスを改良
- 新しいデバイスタイプの定義の追加
- ノード無効化時のノード状態のリセットオプションを追加
 - ・全ての保留アラートをクローズし、ノードの監視状態をリセットするタイミングの選択
- ダイナミックフォルダの改良
 - ・サブビューの数の調整機能を改良
- ユーザーによる手動での MAC アドレスの入力機能の追加

- グラフィカルなマップのエディタの改良
 - ・スタイル選択の機能、色の選択画面、ノードの自動整列の改良
 - ・SVG のサポート
- パフォーマンスビューの検索機能の追加
- Open SSL 1.02j に更新
- [概要](ダッシュボード)→[サマリ]の全体のステータスの算出速度を改良
- ユーザーアカウントがアップグレードできない問題を修正
- アクセス権にパフォーマンスビューの権限を追加
- 監視依存関係のスキャン結果を改良
- ノードの無効化/有効化の後、しきい値違反の「存在」監視イベントが生成されない問題を修正
- ドキュメントの内容を更新
- ノードのデバイスタイプに適した監視問題が表示されるよう修正
- バージョン 7 以前にて作成したアトラスをアップグレードできない問題を修正
- レポートが送信されない問題を修正
- 往復メールの監視センサーが動作しない問題を修正
- NetCrunch サーバーのサポート対象 OS に Windows Server 2016 を追加
- 複数のハートビートイベントを設定した場合に、同一のイベントが複数発生する問題を修正

2.9.バージョン 9.3.3.3896

- まれに TCP パケットをドロップする mpmon.dll のバグを修正
- レポートのインターフェースの使用率とトップチャートの使用率によるトップインターフェースにて、FD 帯域幅カウンタに代わり HD 帯域幅を使用するよう変更
※旧バージョンから引き継いだアトラスでは変更なし
- 構文解析式に含まれる変数が 1 つの場合にテキストログ監視センサーが機能しない問題を修正
- 一部の環境にて、ノードの設定の識別方法を変更できない問題を修正
- サーバーハンドルのリークを修正
- ESX 5.5 の監視のライブラリを更新
- 物理的セグメントマップにて一部の ESX ノードが見つからない問題を修正
- 認証情報マネージャーで一部の認証情報が破損する問題を修正
- 複数のコンソールがスキャン中に開いたときにハングアップする問題を修正
- Windows XP と Windows Vista にて NetCrunch が動作しないよう変更(サポート対象外)
- 検索機能が正しく動作するよう修正
- コンソールの安定性を修正
- サーバーの安定性を修正
- 各言語版のコンソールの修正
- いくつかのコネクションブローカーの問題を修正
- Live Agent 統合の UI を修正

- 認証情報マネージャーで特定の文字列を使用した場合の問題を修正

3. 既知の問題

NetCrunch 9 での既知の問題について記載いたします。

3.1. アップグレードにおける問題

- アップグレードした場合、HTML のメッセージ形式が破損する。
修復方法: 以下の手順にてメッセージ形式の定義ファイルをデフォルトのものに差し替えます。なお、カスタマイズしていたメッセージ形式が存在する場合は、カスタマイズした内容が破棄されます。再設定が必要となりますので、あらかじめご了承ください。
 1. コンソールと接続ブロカーを終了します。
 2. Windows のスタートメニューから NetCrunch サーバーを停止します。
 3. NetCrunch のデータ保管フォルダ配下のアトラスのフォルダにある MsgFormats.xml ファイルを削除します。
デフォルトインストール時のファイルパスは下記のとおりです。
C:\ProgramData\AdRem\NetCrunch\data_ja\<#>
※ProgramData フォルダは隠しフォルダです。
※<#>はアトラス ID を示します。「1」はデモアトラスを、「2」以降が実際のアトラスを示しています。更新日時や、data_ja フォルダ配下にある atlases.xml ファイルの内容から、対象のアトラスを判断する必要があります。
以前のバージョンからアップグレードを行っている場合、下記のファイルパスとなっている場合があります。
C:\ProgramData\AdRem\NetCrunch\8.0\data_ja\<#>
 4. Windows のスタートメニューから NetCrunch サーバーを開始します。
- アップグレードした場合、ユーザーアカウントの追加やパスワードの変更が行えなくなる。
修復方法: 以下の手順にてユーザーアカウントの定義ファイルをデフォルトのものに差し替えます。なお、既存のユーザーアカウントの設定は破棄されますので、再設定が必要となります。あらかじめご了承ください。
 1. コンソールと接続ブロカーを終了します。
 2. Windows のスタートメニューから NetCrunch サーバーを停止します。
 3. NetCrunch のデータ保管フォルダ配下のアトラスのフォルダにある UserProfiles.xml ファイルを削除します。
デフォルトインストール時のファイルパスは下記のとおりです。
C:\ProgramData\AdRem\NetCrunch\data_ja
※ProgramData フォルダは隠しフォルダです。

以前のバージョンからアップグレードを行っている場合、下記のファイルパスとなっている場合があります。

C:\ProgramData\AdRem\NetCrunch\8.0\data_ja

4. Windows のスタートメニューから NetCrunch サーバーを開始します。
5. コンソールを起動します。
6. [NetCrunch サーバーに接続中]ウィンドウにて、[ユーザー名]を「Admin」、[パスワード]を空欄に設定し、[OK]をクリックします。
7. [NetCrunch パスワードの変更]ウィンドウにてパスワードを設定の上、[OK]をクリックします。

3.2.その他

- Web アクセスを行った場合、マップを表示した際にレイアウトが崩れて表示される。
回避方法:一度マップの[ノード]→[詳細]タブなどを表示したのち、再度[マップ]タブを表示する。
- WMI ツールのイベントログや、Windows イベントログ監視イベントで発生したイベントログのパラメータに表示される発生時刻が間違っている。
- Red Hat 7 および Cent OS 7 を監視する場合、Linux エージェントレス監視の Memory のパフォーマンスカウンタのうち、以下のカウンタにおいて想定と異なる値が出力される。
 - ・% Available for Processes
 - ・% Used by Processes
 - ・Available Bytes for Processes
 - ・Used Bytes by Processes
 - ・Cache Bytes
- SNMP プロフィールに SNMPv1 を使用した場合、値を収集できないことがある。
回避方法:SNMPv2 を使用する。
- [ノード監視の無効化]から[指定期間]を指定した場合、指定の時間帯に無効化が行われず、設定直後に無効化される。

4.よくある質問

NetCrunch について、よくある質問について記載いたします。

4.1.よくある質問および回答

- ノードの設定の[DNS 名]欄にアンダーバーや日本語を使用できない。
回答:バージョン 8 より仕様変更のため、使用できなくなりました。ファイルからノードの

挿入を用いた場合やバージョンアップを行った場合、DNS 名にアンダーバーや日本語を使用している場合、プロパティの変更を行うことができません。

- バージョン 6 からのアップグレード後、アラートのメールの件名に DNS 名が表示されない。
回答:バージョン 7 より、イベントログの表示情報の仕様が変更されております。これにともない、デフォルトでメールのメッセージ定義に使用されている「\$Common.AlertInfo」に含まれる情報が変更されました。DNS 名を表示するパラメータとして「\$Properties.DisplayName」がございますので、メッセージ定義にこのパラメータの挿入をご試行ください。
メッセージ定義の編集方法について、以下に例示いたします。
 1. メインメニュー→[監視]→[アラートメッセージ形式]を選択します。
 2. [アラートメッセージ形式]ウィンドウにて[メッセージ形式]を選択します。
 3. [email-txt]または[email]を選択します。
 4. 編集したいメッセージ定義に[パラメータの追加]からパラメータを挿入し、保存します。

- Admin のパスワードが分からない。
回答:Admin のパスワードが分からない場合、nccli.exe を使用してパスワードをリセットすることができます。nccli.exe は、NetCrunch のインストールフォルダ内に用意されています。
以下に手順を記載いたします。
 1. NetCrunch 搭載サーバーのコマンドプロンプトにて、以下のコマンドを実行します。
nccli.exe reset-admin-password
 2. コンソールを起動すると、ユーザー名とパスワードの入力画面が表示されます。ユーザー名に Admin、パスワードは空欄に設定の上、[OK]をクリックします。
 3. [NetCrunch パスワードの変更]ウィンドウにて Admin のパスワードを設定の上、[OK]をクリックします。

- NetCrunch から受信したメールが文字化けする。
回答:NetCrunch では、テキスト形式のメールの文字コードが「UTF-8」に設定されております。また、メールのヘッダー内に「MINE-Version:1.0」という表記が存在しないため、メーラーによっては MINE 形式と認識できず、文字化けする場合がございます。テキスト形式のメールが文字化けする場合、メーラー側で受信したメールを「UTF-8」で表示するか、NetCrunch が送信するメールを HTML 形式に変更することをご検討ください。

- Windows イベントログの監視が行えない。
回答:NetCrunch のサービスの 1 つに、AdRem NetCrunch Server というサービスがございます。このサービスの起動ユーザーは、通常、ローカルシステムアカウントになっております。起動ユーザーがローカルシステムアカウントの場合、環境によっては、Windows イベントログの監視が行えない場合がございます。この事象を解消するには、起動ユーザーを変更する必要があります。

以下に手順を記載いたします。

※Windows の操作については、OS や表示方法によって異なります。

1. NetCrunch のコンソールおよびコネクションブローカーを終了します。
2. Windows のスタートメニューから、[NetCrunch サーバーの停止]を選択します。
3. Windows のタスクマネージャーの[プロセス]タブにて、「AdRem NetCrunch Server」または「NCServer.exe」が存在しないことを確認します。
4. Windows のスタートメニューから、[コントロールパネル]→[管理ツール]→[サービス]を選択し、サービスツールを起動します。
5. [サービス]ウィンドウ上にて、[AdRem NetCrunch Server]を右クリックし、[プロパティ]を開きます。
6. [AdRem NetCrunch Server のプロパティ]ウィンドウの[ログオン]タブにて、[アカウント]を選択し、[アカウント]と[パスワード]を設定します。[アカウント]は、[参照]ボタンから設定を行います。
※Administrators 権限のローカルユーザーまたは NetCrunch の Windows 監視ドキュメントの条件を満たしたドメインユーザーを設定します。
7. Windows のスタートメニューから、[NetCrunch サーバーの開始]を選択します。
8. Windows のタスクマネージャーの[プロセス]タブにて、「AdRem NetCrunch Server」または「NCServer.exe」が存在することを確認します。
9. NetCrunch のコンソールを起動します。
10. 監視対象の Windows ノードを右クリック→[ノードの設定]を選択します。
11. 新しく開いたウィンドウの[監視]タブの[Windows]の項目の右側にある歯車のアイコンをクリックします。
12. [Windows]ウィンドウの[認証プロフィール]の項目で[編集]をクリックします。
13. [認証プロフィール]ウィンドウにて、[ユーザー名]と[パスワード]を設定します。すでに[ユーザー名]などが設定されている場合は、設定をいったん消去し、再度設定します。
14. [OK]をクリックし、各ウィンドウを閉じます。

※手順[10.]から[14.]は、各 Windows ノードに対して設定する必要があります。

※AdRem NetCrunch Server の起動ユーザーの変更後、監視問題が発生する場合がございます。手順[14.]まで実施いただき、各 Windows ノードの認証プロフィールの設定後、監視間隔以上の時間監視問題が解消されない場合は、弊社サポートセンターまでお問い合わせください。

- CSV ファイルからノードを追加する際、名前を設定して追加した。当初はノードのキャプションにはホスト名が表示されていたが、いつの間にか名前の表示が消えていた。

回答: CSV ファイルから追加したノードの名前が名前解決できないものである場合、ノードの設定にある[DNS 名]欄に名前が反映されません。この場合、[DNS 名]欄が空欄となり、空欄のまま設定を保存しますと、ノードのキャプションに表示されていた名前が削除されます。ノードの設定を編集する際には、[DNS 名]欄を再設定していただく必要がございます。

[DNS 名]欄を使用する以外にノードに名前を設定する方法としては、[表示名]欄とフィールドを使用する方法が考えられます。[表示名]欄を設定しますと、任意の名前をノードのキャプションに反映することができます。また、フィールドに設定することで、メール通知などのメッセージのパラメータを使用することができます。